



日本からインドネシアに自動車部品を輸出するには、自由貿易協定（FTA）でFTA税率が適用される。一方で、同税率の反映には日本での特定原産地証明の取得や印度ネシアで一定比率の

【大津】平安製作所（滋賀県高島市、高橋鉄次社長、0740・27・1271）は、機械商社のマルカキカイと連携し自動車部品の海外展開を本格化する。日本で生産した自動車部品の仕掛かり品を、インドネシアの現地メーカーで仕上げる仕組みを構築。2014年4月にもインドネシアで同部品の供給を始め、東南アジア諸国連合（ASEAN）の他国にも順次、供給を拡大していく。2年後に海外売上高で年2億円を目指す。

日本からインドネシアに自動車部品を輸出するには、自由貿易協定（FTA）でFTA税率が適用される。一方で、同税率の反映には日本での特定原産地証明の取得や印度ネシアで一定比率の

生産を行うことも必要。

物流網とともに輸出にかかる複雑な業務でマルカキカイの協力を得る。

平安製作所はマルカキカイが出資するインドネシアの自動車部品メーカーで、パミンド（ジャカルタ市）に、ドライブプレートの生産技術のライセンス提供を始めた。歯形成形や焼き入れなど、高度な成形技術は平安製作所が日本で行い、面成形や穴あけ、仕上げなど全工程の4割をパミンドが

担当する。

仕上げた製品はインドネシアに進出する日系自動車メーカーに供給する。これをタイやフィリピン、マレーシアなどメーカーの周辺拠点に拡大していく。マルカキカイとの協業で物流網整備や、取引する現地企業の設備改善提案なども実施し、強固なサプライチェーンの構築を急ぐ。

平安製作所

海外で車部品本格展開 インドネシアで仕上げ供給